

全国協議会 ニュース

2015年5月1日発行 第275号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：野村正満 題字：仲田順和（会長）
http://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

財政安定化に向け制度改革 企業向け「特別賛助会員」を新設

全国骨髄バンク推進連絡協議会の財政基盤は、正会員（加盟団体）からの年額12万円の会費と、全国からのご寄付によって成り立っています。ところが、財政的にはここ数年、支出が収入を大きく上回る状況が続いてきました。そこで、現在取り組んでいる事業を継続していけるよう、安定した収入を確保するために「賛助会員制度」を改革し、賛助会員の確保を強力に推進していくこととなりました。5月30日（土）に開催される2015年度通常総会で新年度の事業計画案を審議していただきますが、賛助会員制度改革など財政基盤の確立を全面的に掲げます。

2014年度の収支状況（見込額）をみますと、支出が約5200万円だったのに対し、収入は約2900万円でした。つまり、単年度で約2300万円の「赤字」となっているわけです。この傾向は、

金額こそ異なりますが、ここ数年同じです。それでも運営が成り立ってきたのは、2010年にちょうどいた1億円の大口寄付によって補填できていたからです。しかし、その大口寄付も5

年間でほぼ底を尽きました。

今後は、従来にも増して地道な募金活動に努めなければなりません。ただ、善意のご寄付は社会全体の景気動向にも左右されるため不安定な要素があることも事実です。

この制度はこれまでもありました。個人会員（会費年額2000円）が中心で現在は10人余りにとどまっています。団体会員（同1万円）にはなかなか広がっていません。

そこで、安定的な財源を確保するために賛助会員制度を改革します。新たに、企業向けの特別賛助会員（同10万円）を設けました。また、従来の個人賛助会員を「サポート会員」に、団体会員を「一般賛助会員」と名称変更します。

つまり、全国協議会の事業・活動に賛同していただける企業・団体から広く賛助会員を募集し、賛助会費収入で年間2000万円程度を確保し、事務局運営に必要な額を賄える安定的な財政を目指します。

そのためには、役員や正会員のご理解とご協力が欠かせません。新たな賛助会員制度が拡充していけば、正会員の会費を減額することも可能となってきます。

日本縦断キャラバンがスタート 那覇の出発式にドナー11人集合

全国協議会の設立25周年記念「日本縦断キャラバン」がいよいよスタートしました。素晴らしい天気にも恵まれた4月24日（金）午前、那覇市の沖縄県庁で11人のドナー経験者をお迎えして「出発式」が行われたのです。6月28日（日）の札幌市での「完走式」まで、全国を駆け巡ります。

キャラバンカーは協賛いただいているトヨタ自動車のノア・ハイブリッドで、ボンネットと両側には目立つラッピングを施し、リア部分にはご支援をいただいた企業の社名ステッカー



沖縄の象徴の巨大なシーサーの前＝残波岬

が貼られています。

走り出せば目立つこと請け合いです。各地の赤十字血液センターや行政などを訪れ、これまでの感謝とこれからの協力をお願いしていきます。途中、福岡ソフトバンクホークスの王貞治会長やアビスパ福岡の井原正巳監督など骨髄バンクと縁のある著名人が激励してくださるようになっていきます。

＝関連記事・写真2～3面に

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

〈財団マンスリーJMDP(4月15日発行)より抜粋〉

■日本骨髄バンクの現状(2015年3月末現在)

	2月	3月	現在数	累計数
ドナー登録者数	1,909	2,150	450,597	635,075
患者登録者数	241	250	2,758	44,475
移植例数	114	105	—	18,063

■3月の区別ドナー登録者数

献血ルーム／682人、献血併行型集団登録会／1,398人、集団登録会／32人、その他／37人

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

■3月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 2,212人／20代 70,983人／30代 145,519人／40代 183,005人／50代 48,878人

■3月の20歳未満の登録者113人

■3月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：100件

■2015年度通常総会・全国代表者会議
5月30日(土)午後1時～午後5時半
東京・西新宿の全労済東京会館3階
なお、午後6時から懇親会(ホテルローズ
ガーデン新宿)を予定。

目立つラッピングと赤丸マグネット バンクへの「願い」が車体埋める

4月16日 造血細胞移植累計3万例突破

沖縄でスタートを切った「日本縦断キャラバン」(日本赤十字社共催)は、全国骨髓バンク推進連絡協議会の設立25周年記念事業の一環です。私たちは四半世紀を振り返りながら、日本骨髓バンクのドナーを経験された方々に乗車していただき、キャラバンカーをバトンとして、リレーで2カ月余りかけて走行します。ドナーの皆さまを

はじめ、ご協力くださっている方々に感謝をお伝えし、さらに、骨髓バンクやさい帯血バンクの重要性を広く知っていただくことを目的に、全ての都道府県を走り通します。

キャラバンカーは25周年を記念したラッピングに加えて、ご支援・ご協力くださる企業様のステッカーを貼っています。ここに、赤いマグネットの

丸が少しずつ増えていっています。これは骨髓バンクやさい帯血バンクへの願いを込めて書き込んでいく、皆さまからのメッセージです。沖縄では出発の初日、23枚のメッセージが貼られました。日本縦断中、赤い丸がどんどん増えて、貼る場所を探すのに困るくらいのメッセージでいっぱいになることでしょう。

出発直前の4月16日には、日本骨髓バンクとさい帯血バンクを介した「非血縁者間造血細胞移植」の累計移植症例数が3万例を突破し、2つの大きな記念が重なりました。そこで、このたびの日本縦断キャラバンは日本赤十字社との共催事業となりました。

キャラバン 出発式 翁長知事が一層の努力約束



キャラバンの趣旨を説明する野村理事長

日本縦断キャラバンの出発式が開かれた4月24日、会場の沖縄県庁1階県民ホールでは、まず全国協議会の野村正満理事長がキャラバンの趣旨説明を行い、沖縄県骨髓バンクを支援する会の上江洲富夫代表が主催者あいさつをしました。

その後、翁長雄志知事や大久保和明沖縄県赤十字血液センター所長、百名伸之琉球大学骨髓移植センター長のあいさつに続き、参列した11人の骨髓バンクドナーを代表して、上江洲聖さんから体験を交えたお話がありました。

沖縄県のドナー登録者数は、人口比で全国平均の4倍にも達する「全国一」を誇りますが、翁長知事もそのデータを示しながら「沖縄には『ゆいまーる』や『いちやりばちよーでー』という、骨髓バンクの理念につながる助け合いの心があります。今後とも県として骨髓バンクの一層の普及推進に努めてまいります」と述べました。

式後、キャラバンカーは、ドナー経

験者の池田昌広さんがドライバーとなって、献血併行登録会が開かれている嘉手納町に向かいました。

途中、残波岬では沖縄の象徴である巨大なシーサーに目を奪われ、通過し



翁長雄志沖縄県知事

ていく修学旅行中の中学生が盛んに手を振ってくれました。一瞬戸惑ったものの、とにかく派手で目立つキャラバンカーを実感しました。



骨髓バンクドナー11人を前列に記念写真

●ドナーと患者の声

親子の絆を確認できた

骨髓バンクドナー代表・上江洲聖
私が、初めて骨髓を提供したのは10年前で、初めて授かった子どもが生まれる5カ月前でした。その時に子どもは、家族みんなで育てていけるけれども、ある命は自分にしか救うことができません。話し合った結果、みんなの同意を得て、提供することができ

ました。2年前に3人目の子どもが2歳の時、2回目の骨髓提供をしました。

親になってわかったことは「子どもの健康や未来を案ずる親の気持ちは、自分の命よりも大事なものだ」ということでした。私の提供した骨髓が、親なのか子どもなのかわかりませんが、それは、ひとつの命だけではなくいくつもの命、人生に繋がったのではないかと思います。自分の役割と親子の絆を確認できる機会となりました。

出会えばみんな兄弟に

糸数 美智子

私は20年前に顔も名前も知らないドナーの方から新しい命(骨髄液)をいただき健康を取り戻しました。発病当時、2歳の息子のためにも小学校の入学式には参加したいとの願いもかなったばかりか、先月、息子は大学を卒業しました。

ドナーの方とは退院後、1度だけ手紙のやりとりをしましたが、会うことはできません。

今日の出発式に参加して下さった11人のドナーの方々に1人ずつ手を

取り「ありがとうございました」と声をかけたいと思いました。

骨髄バンクでHLAの適合するドナーが見つかったと聞いたとき、両親、弟とは合わなかったのに、他人でもピッタリ合う人がいるなんて“人類みな兄弟”という言葉は本当かもしれないと思いました。

「いちゃりばちよーでー」は直訳す

ると「出会えばみな兄弟」。やさしくて骨髄バンクの理念にピッタリの言葉です。

式後、1人のドナーの方に声をかけ私のドナーの代わりに握手して下さいとお願ひし「ありがとう」と伝えました。その方からは、「こんなに元気になっている方に会えて嬉しいです」との返事がありました。

● 25周年記念事業へのご寄付(寄附、広告、共催費の計。現金)4月20日現在

大垣徳洲会病院	10万円	太平洋工業	10万円	日本耐酸堀工業	10万円
洛和会本部	20万円	三報社印刷	3万円	タクトコーポレーション	1万円
中外製薬	40万円	イビデン	10万円	大垣共立銀行	20万円
トヨタ自動車	100万円	津の守坂法律事務所	10万円	各務原クローバークラブ	10万円

注目のクラウドファンディング
活動資金調達の悩み解消へ
「夢の実現」に意外なアイデア

インターネットを通して多くの人から少しずつ支援を募り、最終的に目標額の支援金を得るサービス「クラウドファンディング」が、新しい資金調達手段としてこのところ注目を集めています。さまざまな活動に必要な資金を調達するのは、どこの団体にも共通した最大の悩みの一つですが、「コロンブスの卵」的な意味合いがあるのです。

クラウドファンディングとは、そもそもアメリカ発のサービスですが、日本国内の運営会社のなかで、READY FOR(以下RF)を取り上げてみます。

同社は①最大規模(これまで約800の企画、支援者3万5000人、支援金合計約5億円、全体の7割以上の企画が目標金額達成)②手数料最安値③登録の企画内容は公共性・社会貢献性の高い活動が多い④スタッフがページ作成方法や広く一般の目に触れるよう指南するなどのバックアップ体制が整っている——などが特徴です。

■仕組み：企画実行者は、支援金の目標金額・期間・リターン(礼状・オリジナルグッズ・特産品など)を設定し、支援者が賛同できる企画のリターン「引換券」を購入する形式です。募集期間内に目標金額が集まった場合のみ企画は成立し、実行者は手数料17%を差し引かれた支援金をクレジットカード決済でRFから受け取ることができます。

■メリット：①掲載費無料②不特定

多数の人に活動をアピールできる③支援金獲得④募集期間は10日～90日の中で自由に設定できる

■デメリット：①登録から開始まで約4週間かかる②不成立の場合、支援金が一切入金されない③インターネットでの拡散、クレジットカード決済のみ⑤税制上の寄付金控除対象とならない

にいがたの会が挑戦
36万円目標が84万円に
寄付の引き換えはコシヒカリ

骨髄バンク命のアサガオにいがたでは、このたびクラウドファンディング「READY FOR？」に挑戦しました。

始めようと思った経緯は、1通のメールでした。それは、今話題の「クラウドファンディングを始めませんか？」というものでした。「また迷惑メール？」と思いましたが、HPを見てみたら、ネット上で資金を集めるといものでした。

ちょうど患者家族の支援ハウスを始

めたばかりで、豊の入れ替えまで資金が回らず見送っていたので、「この豊の資金を集めることができるかもしれない、会のPRにもなるからダメ元で挑戦してみよう！」と考えました。

寄付をしてくれる方へ品物と引き換えるのですが、新潟ならではの物を考えた結果、やはりお米かなと思い、寄付をいただく金額によってkg数が異なりますが、魚沼産のコシヒカリに決めました。寄付をしてくれる方の中にはプロジェクトの内容に関心がなくても、引き換える品物に興味を持って寄付して下さる方もいるので、品物は慎重に考えないといけません。

あとになって「新潟のお酒も入れたらよかったなあ」と反省部分もありました。フェイスブックやツイッター上で拡散のお願いをし、メールアドレスを知っている皆さんにはメールで協力をお願いしましたが、なかなか集まりません。

ところが地元新聞に記事の依頼をした途端、締め切り1カ月前には、目標だった36万円を達成することができ、3月31日の最終締め切りには39万2000円となりました。しかもうれしいことに、インターネットの環境がない方などから「寄付を直接送りたい」といった希望が多く、その金額が44万3000円にも上り、最終的には目標金額の倍以上となる83万5000円が集まりました。(骨髄バンク命のアサガオにいがた・高野由美子)

各地のたより
各地のたよりを写真添えてお寄せください。



神奈川

**円覚寺でチャリティーコンサート
舞台と観客が一体化した名演奏**

骨髄バンクチャリティーコンサート・ピアノ三重奏の夕べを4月4日(土)、鎌倉の円覚寺で開催しました。おなじみの司会の坪郷さんが20回以上聞いている人は? と声をかけると、7~8人の手が上がりました。

このコンサートは変わらぬ情熱で演奏をしてくださる小澤さん・三戸さん、司会の坪郷さん、円覚寺、河合楽器製作所など、多くの人に支えられて23回目となりました。今回のピアニストはメキシコのラファエルさんで、坪郷さんの機智に富んだインタビューから音楽に真摯に向かう姿勢とラテン的な大

かな人柄が知れて、興味深く和やかなトークでした。後半のラヴェルのピアノ三重奏曲は舞台と観客席が一体となり、音楽が桜咲く空間に紡ぎ出されていくようで、拍手が鳴りやまない名演奏でした。

(神奈川骨髄移植を考える会・黒部光司)

千葉

**東京学館高校演奏会でパネル展
ドナー体験者のミニトークも**

東京学館総合高等学校の第16回吹奏楽部定期演奏会でのパネル展が3月21日(土)、開かれました。今回で5回目です。少数でしたが関心を持たれた父母や教職員が熱心にご覧になっていました。プログラムに「ダイジナトコロ」のチラシを入れてくださったり、部員全員で「ダイジナトコロ」を合唱したりと啓発活動にご協力をいただきました。

今年のミニトークでは、同校の卒業生の小林洋大さんにドナー体験のお話を聞くことができました。きっかけは高校で行われた献血で、大学卒業後、東京の勤務先のビルでの献血時、骨髄バンクのボランティアからの説明があり、救える命に救いの手をと登録をされたそうです。そして昨年7月にドナーになり、人生観が変わったそうです。我々ボランティアの活動に感謝のお言葉をいただきました。(千葉骨髄バンク推進連絡会・仲田幸江)

大阪

**関西ゴールドジムスクールの募金
チャリティーイベントで受け取る**

「関西ゴールドジムスクール発表会2015」が3月29日(日)、大阪府高槻・現代劇場で開催され、全国協議会は3年連続でチャリティー募金を贈られました。

当日はゴールドジム関西各店のキッズからシニアまでのスクール生によるキッズダンス、バレエ、ヒップホップ、エアロビクス、フラダンスなどが披露されました。全員が日ごろの練習の成果をイキイキと披露されており、来場者には一般客に加えて演技者の家族も多く、大変盛り上がった発表会でした。

贈呈式では全国協議会が受贈者を代表してチャリティー募金を受け取りました。贈呈式では、募金に対するお礼とともに全国協議会の各種基金や25周年記念日本縦断キャラバンなどの活動内容を紹介し、今後とも変わらぬ支援をお願いしました。(山下晋司)



患者サロン



**上野動物園で「写真教室」
患者サロンが初の野外で**

第7回患者サロンが4月12日(日)、上野動物園で開かれました。屋外での実施は初めてで、内容もズバリ「上野動物園を写そう!」で、血液疾患の患者さんら計9人が参加しました。講師は闘病カメラマンの鳥羽雅行さん=写真左。お二人の感想をお届けします。

◇

動物園といえば、個性豊かな動物を見るだけでなく、ユニークな姿を写真に撮る楽しみもあります。今回は、プロのカメラマンである鳥羽雅行さんが、上手な写真の撮り方をおしえてくださるといふ企画でした。撮り方のコツやポイントをきき、素敵なショットを撮りたいと、こちらもシャッターを押す手に気持ちりがこもりました。

動物の仕草に思わず笑顔になったり、間近で見る迫力に圧倒されたり、見ごたえのある充実した時間でした。また、皆さんとのおしゃべりに心が和むひとときでした。

今後も参加者の交流、情報交換の場の一つとなることを願います。(菅 和歌子)

◇

お天気も良く、散歩しながら写真撮影から移植のことまで色々なお話をさせていただき私にとりましてとても有意義な時間を過ごすことができました。途中から動物の写真撮影に夢中になってました!

私は、現在MDS患者です。2014年暮れに骨髄移植の申し込みをさせていただきました

た。通院している病院には患者同士の集いのようなものがなく、いろいろ情報を集めたい思いもあり、今回病院でリーフレットを拝見し参加申し込みをさせていただきました。

初めて患者サロンに参加するにあたり、こちらのイベントを選んだのは、部屋や会議室で閉じこまってお話しするのではなく、野外でのイベントで開放的な気持ちで素直にお話や情報を伺えるかなと思ったからです。鳥羽先生はじめ、事務局の方、参加されているみなさまはとても気さくでお話ししやすく、身体の体調も気遣っていただき感謝いたしました。ありがとうございました。(関東在住 匿名)

心からのご寄付に感謝申し上げます ●3月21日~4月20日(敬称略)

新宿パーク リーチ麻雀さかえ 現金 5,000円	徳島店 現金 4,000円	●白血病患者支援基金 株式会社クスリのアオキ 現金 944,696円	丸光ブイチェーン中迎店 現金 4,278円
徳島銀座倶楽部 現金 3,000円	鈴木純子 現金 1,348円	株式会社北越ケーズ 現金 274,991円	●佐藤きち子患者支援基金 ブルデンシャル生命保険株式会社 現金 3,270,000円
塩谷 泰人 現金 1,000円	須藤 勝巳 現金 7,215円	イオン九州株式会社 伊勢都城店 現金 4,292円	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 現金 3,966円
木村 純子 現金 30,000円	藤波 敬子 現金 10,000円	みずおクリニック 現金 2,719円	笹森 広夫 現金 100,000円
匿名 現金 5,000円	日新火災海上保険株式会社 切手 25,564円	奥定 弘雅 現金 15,187円	黄 艶君 現金 30,000円
		磯屋食堂 現金 10,846円	匿名 現金 5,000円
		中山 雅雄 現金 2,000円	●志村大輔患者支援基金 高橋 昌子 現金 10,000円
		ひこばえ 現金 7,681円	

**活動資金の援助を
お願いします**

銀行口座 三井住友銀行 新宿支店 普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

□座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会